

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 豊田		
所在地	下関市豊田町中村7-1		
電話番号	083-767-0058	事業所番号	3577800414
法人名	医療法人社団 千葉クリニック		

訪問調査日	平成 21 年 6 月 29 日	評価確定日	平成 21 年 9 月 15 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人 非常勤 2 人 (常勤換算 9.8 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 31,000 円	敷金	無	円
保証金	有 200,000 円	償却の有無	無	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
その他の費用	月額	27,990 円		
	内訳	光熱水費 18,000円 日常生活費 333×30=9,990円		

(4) 利用者の概要 (5月25日現在)

利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	0	要介護 4	1
	要介護 2	0	要介護 5	5
	要介護 3	3	要支援 2	0
年齢	平均 87.8 歳	最低 71 歳	最高 99 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 千葉クリニック、甲斐クリニック
	歯科 中村歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

勤務の一環として、段階的に外部研修の参加や事業所独自の個人対応の研修を実施しておられます。研修の個人ファイルを作り、職員一人ひとりの研修の参加状況が一目でわかるよう工夫されています。また、資格取得に対して受講料支援や勤務調整をして職員を育てる工夫もされています。入浴支援が充実しており、時間や入浴介助、シャワー浴、清拭、足浴の対応、夏季や冬季の夜間入浴対応などで重度の方も入浴を楽しんでおられます。同業者との交流や相互訪問、勉強会等の参加の機会を多く持ち、サービスの質を向上させていく取り組みにも力を入れておられます。

(特徴的な取組等)

AED使用訓練の案内をスーパーや近隣の事業所に掲示してもらい、事業所で訓練を実施されました。運営推進会議のメンバーである自治会長の提案により、自治会の規約の中に、グループホームの利用者の避難時の協力体制についての項目が明記されました。事業所は地域の一員として、避難訓練、搬送訓練、消火器の使用訓練などを実施され連携を深めておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果を運営推進会議で報告後、メンバーである自治会長と前自治会長が参加されて夜間想定訓練を実施されました。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価の意義を説明し、職員4名(新採用の職員を除く)に自己評価書のコピーを配布し、記載してもらったものを回収し集計した後、意見を聞き、相談役、施設長、管理者が検討しまとめられました。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催され、メンバーは家族、自治会長、班長、前自治会長、市福祉課課長、理事長、施設長、相談役、管理者、介護支援専門員で外部評価結果の報告、災害時の対応、行事、ホームだよりについての意見交換や職員の離職・異動の説明等をされています。

(家族との連携状況)

年4回発行のホームだよりには、利用者の暮らしぶりや職員の離職・異動等を掲載され、花見やお楽しみ会などを特集した号外を発行し送付されています。毎月の請求書と利用者の状況報告を一緒に送付されています。家族会は年1回で交流や要望を聞いています。来訪時にも状況報告をすると共に意見や要望を聞き、変化があれば、電話やメールで報告されています。

(地域との連携状況)

地域のまつり、敬老会に参加され、保育園児と豆撒きや芋掘りで交流されています。小学校の運動会の見学や職場体験で訪れる中学生とも交流されています。散歩中の挨拶や、友人・知人、地域の方の立ち寄りや近隣の方々が野菜や花を持って来て下さるなどの交流もあります。また、消防署や警察との連携もされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「人格を尊重、自立の支援、家庭的なケアを地域とともに」という、要旨を入れた事業所独自の理念を相談役や管理職を中心に全員で作りに上げている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を重要事項説明書、ホームだよりに明示し、玄関、事務所、共有空間の掲示板に掲示すると共に、職員会議で勉強会をして、共有、実践に向けて取り組んでいる。運営推進会議でも説明している。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のまつり、敬老会に参加し、保育園児や中学生との交流、小学校の運動会の見学、警察や消防署との連携、地域の方や友人等の立ち寄り、散歩中の挨拶などで交流すると共に、事業所の行事への招待やボランティアの受け入れにも努めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の意義を説明し、職員とともに取り組んでいる。外部評価の結果を運営推進会議で報告し、意見交換をして課題の検討をすると共に、職員にとってはケアの振り返りと意識合わせとなっている。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的開催し、メンバーは家族、自治会長、班長、前自治会長、市福祉課課長、事業所関係者で外部評価結果の報告、行事予定、災害対策等の意見交換をしている。	・メンバー拡大の検討
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターや介護保険課とケアサービスの相談や情報交換をして質の向上に努めている。地域ケア会議にも参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年4回発行のホームだよりと号外で利用者の暮らしぶりや職員の異動・離職を記載して送付している。毎月の利用請求書とともに担当者のコメント(近況報告)を送付している。来訪時や電話、メールで状況の変化や報告をし、要望を聞いている。家族会は年1回開催している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会、来訪時等で問いかけの機会を設けている。相談、苦情の受付担当者や外部機関の明示はあるが、第三者委員の選任はなく、苦情処理の手続きは定められていない。	・苦情処理手続きの明確化 ・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員10名で早出、日勤、日勤、遅出、夜勤の勤務体制で、冬季と夏季で時間帯を変え、起床、入浴や行事、状況変化に柔軟な対応ができるようにしている。希望休、公休出勤などの話し合いで、無理のない勤務調整に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職や異動は抑える努力をし、離職などがあった場合には、運営推進会議やホームだよりで説明すると共に、日勤を3週間、夜勤を3～4回の重複期間を設け、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として、外部研修には段階に応じて参加できるようにし、復命、共有する体制になっている。事業所内の研修計画を作成し、個人用の研修ファイルで一人ひとりの研修過程を把握し、働きながらのトレーニングを進めている。資格取得のために、受講料や勤務調整の支援をしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会、地域ブロック研修会に毎回2～3人程度が参加し、学習会、情報交換などで交流している。他グループホーム数ヶ所と施設の相互訪問、勉強会での交流などで質の向上に繋げている。また、地域の特別養護施設の文化祭、夏まつりに参加して交流をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事業所の見学やレクリエーションなどの体験後の入居や、入居前に自宅や病院等に面接に行き、生活状況、思いを聞き取り、職員が把握し、共有してのサービス開始に努めている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者の得意分野で力を発揮してもらい、利用者から戦争時の経験や米作り、味付け、子育てなど生活の技を教える場面や利用者からいたわってもらったり、励ましてもらったり、支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>馴染みの関係を活かして、暮らし方の希望、意向の把握を共有するために、日々の関わりの中で声かけや言葉や表情から推し測る努力をしている。面会時には家族から情報を得るようにして、本人本位の検討をしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者や家族から意見を聞くと共に、申し送り時に気付きを話し合い、月1回のカンファレンス時には職員全員で意見交換をして、一人ひとりのその時点に沿った介護計画を作成するように努めている。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月毎の見直しとなっているが、介護計画の短期、中期、長期の目標の遂行状況等の評価や状態の変化や問題点が起きた時には、家族、利用者の要望に応じて見直し、新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>理美容院の送迎の支援、受診の付き添い支援、ふるさと訪問、特別な外出(コンサート、夕食、名所巡り)支援など要望に応じての柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他に、利用者や家族の希望のかかりつけ医の医療を受けられるよう、家族と協力し受診の付き添いの支援や情報伝達をして、適切な医療が受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者、家族の意向を確認しながら、状態の変化に応じて関係者と話し合っている。指針、同意書を作成し、ターミナルケアの経験(1回)もあり、現在ターミナルケアを願う利用者がいるので、全員で方針を共有し、研修の計画などを繰り返し話し合っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	勉強会を行い、意識の向上を図ると共に、日々の関わり方を管理者が指導し、プライバシーを損ねない対応に努めている。記録類は事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの希望やペース、体調を考えて起床、食事、入浴など個別性のある支援をしている。ゆっくりと待つ支援、自分で選択できる場面作りという理念のもとのケアに努めている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養士である職員が利用者の好みを聞いたり、畑で採れた野菜を使っての献立を相談したり、一緒に下ごしらえや片付け、茶碗洗いを行うと共に、同じテーブルを囲んで和気あいあいに食事をしている。介助を受けつつ食事をする利用者の笑い声に和む情景も見られた。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	基本的な入浴時間は14時～17時だが、希望する入浴時間を大切に、夕食後、寝る前の入浴や、何度でもシャワー浴が出来る。職員2人での介助入浴は午前中にすると共に、清拭、足浴などの対応や工夫で入浴を楽しめるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	縫い物、洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜作り、編み物、掃除など利用者の経験を活かす場面づくりや、カラオケ、絵、ひなまつりや七夕の作品作り、歩行訓練、ラジオ体操、塗り絵、ちぎり絵などの楽しみごとの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節ごとの花見(桜、椿、菖蒲、向日葵など)、大師さま参り、ホタルまつり、初詣、散歩、買い物などに車や車椅子などを利用し、戸外に出る支援をしている。	
(4)安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束による弊害を職員は理解し、共有して拘束のないケアに取り組んでいる。重要事項説明書に明記して、家族にも説明している。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかける事の弊害を全職員が理解し、利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけ一緒について行くなど、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支えるようにしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、ヒヤリはつとや事故報告書の記録様式を工夫し、一人ひとりの事故防止対策を検討して、把握に努め、全職員で共有すると共に、家族に説明している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、連絡網や関係機関の連絡体制の整備をしている。職員会議、カンファレンス時に看護師と一緒に応急手当のシュミレーションを行っているが、初期対応の訓練の実施にはいたっていない。	・応急手当、初期対応の定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練(夜間想定、車椅子の方などの搬送訓練)、消火器の使用訓練、AED使用訓練を実施している。運営推進会議メンバー(2名)も参加している。自治会長の働きかけにより、自治会の規約の中にグループホームの利用者の避難に協力する項目が明記されている。非常食の準備もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとりが使用している薬の目的、副作用、用法、用量について把握に努めると共に、3段階のチェック、確認で誤服の防止や飲み忘れのないように支援している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	利用者一人ひとりの状態に応じて、毎食後の口腔ケアの支援をしている(介護度の高い利用者には舌ブラシの使用もしている)。歯ブラシの交換、義歯の消毒、保管の支援。歯科医、歯科衛生士からの口腔ケアの指導も受けている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を記載し、栄養士である職員がバランス等に配慮すると共に、それぞれの状態に応じて刻み、とろみ、ミキサー食の対応や、糖尿病の食事の対応もしている。好みを把握して青魚が嫌いな人には白身魚に変更もしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、うがい、手洗いの励行、ペーパータオルの使用、月1回の居室の消毒、1日1回廊下の手摺り等の消毒を行っている。インフルエンザの予防接種は利用者、職員ともに接種している、事業所で勉強会を実施し、法人や行政より情報提供がある。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花や中庭の木々は目に楽しく、ホール、廊下のソファや椅子が各自の居場所となり、自由にゆっくりと過している。調理の匂い、茶碗を洗う音、唄う声などが心地良く聞こえ、落ち着くことができる。「ゆったりと心地良い空間を作り過し方を提供します」という理念のもと、利用者がのんびりと過している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	位牌、写真、タンス、鏡台、テレビ、時計、座椅子など使い慣れたものや好みの物を家族と相談しながら用意し、居心地良く過せるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム豊田
所在地	山口県下関市豊田町中村7-1
電話番号	083-766-0058
開設年月日	平成15年2月1日

【実施ユニットの概要】 (5月25日現在)

ユニットの名称				
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 1名	女性 8名	
	要介護1	0	要介護4	1
	要介護2	0	要介護5	5
	要介護3	3	要支援2	0
年齢構成	平均 87.8歳	最低 71歳	最高 99歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価を職員にも答えてもらい、集計を取り記入する。
評価確定日	平成 年 月 日

【サービスの特徴】

自然に囲まれ、季節を感じながら過ごすことができ、施設の近隣にはスーパー・道の駅・温泉等、利便性に富み地域との関りを持ちながら生活できる。一人ひとりの方に対し今何が必要か、その方らしく過ごすにはどうすべきかを常に考えながら、日々の援助を心掛けている。
医療併設型で、医師が常時待機しており、緊急時や夜間の対応も充実している。介護福祉士を中心に看護師、栄養士が総合的な援助を行っています。広い家庭菜園には、季節の野菜、花の園芸をボランティアの指導にて行っています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所独自の基本理念がある。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用時には必ず理念を伝える。職員会議、申し送り等理念に触れるようにしている。事務室他、目につく場所に掲示し、意識するよう取り組んでいる。	
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	職員に対し、常に明確に示している。	
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	相談役を交えて、常にサービスの質の向上及び職員の資質向上に努めている。	
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム便り又、来設時に説明する等、理解を頂けるよう働きかけ、地域の方々には運営推進会議を通じて説明を行っている。	
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	日常的に散歩や買物に出かけたり、お天気の良い日は日光浴をしながら、行きかう近所の方々に挨拶を交わし、地域の方も犬の散歩の途中に立ち寄られたり、赤ちゃん連れの若いお母さんがレクリエーションに参加できるような声かけ、雰囲気がある。	
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りに参加したり、敬老会に出席、又地域の保育園児と一緒に芋ほり・豆まきを行い交流を深めている。他、小中学生の訪問、職場体験等、積極的に受け入れている。	
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議で認知症の専門知識を活かし、地域の方へ役立てることはないだろうか、もっと地域の方々の身近な事業所でありたいと話をするものの、具体的な取り組みはできていない。	地域の方(まずは同じ自治会の方)を対象とした、サロン会を開催予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、職員と共に行い、外部評価の結果は職員会議等で報告して改善に向け努力している。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	会議で評価結果の簡単な報告を行い、意見を頂くようにしている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア会議に出席している。又、他事業所主催の催しもの等に参加。12月のお楽しみ会には、行政側の出席も得、サービスの質の向上に努めている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現在学ぶ機会もなく、職員の理解もない。	勉強会があれば、積極的に参加していきたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内で虐待が行われないよう、常に職員同士が意識して防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、利用者の家族が十分納得されるまで説明を行い、理解・納得を図っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃より利用者の言葉や態度から、思いを察する努力をしている。夜勤、入浴時等1対1でゆっくり関わられる時に、さりげなく思いを聞き出せるよう働きかけている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホーム便りに利用者の写真を載せ、暮らしぶりを見て頂いたり、毎月近況報告を各家族に送り、来設された際には、直接日頃の様子をお伝えしている。必要な時は、電話・メール等でも連絡を取っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	家族からの開示の要求には応じている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	ご家族からは、来所された際に直接ご意見を頂いたり、相談窓口の設置やご意見箱も設置し、常にご家族の意見を頂く努力をしている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や日々のミーティング等で意見・要望を聞き、反映させている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて勤務の調整に勤めている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者にとって安心できる生活の場であるよう、職員の入れ代わりは防ぎたいものの、離職者は多く、動きのあった場合には、利用者・ご家族の紹介をし、1日も早く信頼関係が築けるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的な事業所内の研修を行い、法人外の研修等には職員・パートに関係なく参加している。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	多様な職員配置に心掛けている。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会での学習会、他の事業所見学会等で交流を持ち、サービスの質の向上につなげている。又、リーダー研修に参加したことで管理者同士の交流が深まり、施設見学や情報交換等により互いのサービスの質の向上に役立っている。		グループホーム連絡会での学習会は、一部の職員しか参加できないので、この度研修にて交流を持つことのできた管理者さんを通じて、職員同士の施設見学会など積極的に行って行きたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の関わりの中で、ご家族でしか分からないこと等の情報提供を頂きながら、その情報を職員全員が共有し、家族と共にご本人を支えていく為の支援につなげている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	日頃より本人の様子を伝え、来訪時には必ず職員も交えて話し、話題の提供を行ったり、誕生会・お楽しみ会等、行事参加を促したりと良好な関係の継続に努めている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの知人・友人・親戚に来所して頂いたり、ドライブに行きその場所の話をしてもらったりしている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事・おやつの時間に、職員が入居者の間に入り、互いが良好な関わりが持てるよう努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、継続的な関わりが必要に限らず、すぐさま関係を断ち切らずにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃からの関わりの中で把握し、推測するように心掛けていく。ご本人からの希望等が直接分かりにくい場合は、家族より情報提供して頂き、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの中で、様々な情報を詳細に聞き、入居後も折に触れ色々な事柄を本人や家族から聞き、サービスに反映させている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	それぞれの生活リズムを把握するように努めている。又、心身状態や本人の残存能力をよく見極めるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の思いを日頃のケアの中から見つけ出すように努めている。又、ご家族の意見も取り入れるよう努め、ケアカンファレンスを開催し、介護計画を作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人の状況の変化に応じて見直し、検討を行い計画を作成している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録に細かい日常の様子を記入し、情報の共有、介護計画の見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人・ご家族の状況に応じて通院時の付き添い等、柔軟に対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の保育園の訪問、消防署指導での避難訓練等、地域資源と協力しながら支援している。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	常時、施設見学を受け入れている。又、ボランティア研修等も積極的に受け入れている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	理容師が訪問し、カット・毛染めをしてもらっている。又、送迎付きの美容院を利用することもある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		必要に応じては、今後地域包括支援センターと協働し、支援につなげたい。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		医師・看護師・事業所職員ともっと具体的に検討・準備を行っていきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者一人ひとりの個性・性格を尊重し、返答能力に応じた質問方法で対応、記録するよう心掛けている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員の勝手な判断で取り決めず、一人ひとりの能力に合わせて、複数の選択肢を提案し、自己決定できるような場面作りに努めている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活歴等把握した上で、その方らしい暮らしの中で可能な家事に結びつけて、できる力・できる喜びを大切にしながら支援している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その方の体調・安全を考慮しながら、今何をしたいのか、どう過ごしたいのか思いを大切に、希望にそった支援を心掛けている。</p>	<p>思いを口にできない方への、その人らしい暮らしを提供できる様、見直し取り組んで行きたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容師が来所の上、散髪・ヘアカラーを実施。美容院への希望がある方は、行って頂くよう支援している。</p>	<p>その方らしい、おしゃれができるよう支援している。(季節・気候・行事に合わせ)</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者一人ひとりのできる力を活かしつつ、食事の準備・片付けを一緒に行っている。季節の野菜を皆で下ごしらえする等、楽しみながら行えるよう努めている。</p>	<p>入居者の重度化により、職員が食事介助を行う為、同じ時間に食事を楽しむことができないが、入居者との会話を大切に支援して行きたい。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>おやつを中心に、食べたい物を選んで頂いたり、飲み物を選ぶ当たり前のことをしてもらう様支援している。疾患のある方は、職員管理にて、さりげなく調整し支援している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンをチェックし、サインを見逃さないよう排泄誘導を行い、失敗を減らすよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できるよう支援している。希望を聞きゆっくり楽しめるよう支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	その方のペースに合わせた就寝、起床時間で支援。夜間は気温、体調に合わせて寝具、衣類調整を行い日中も状況、体調に合わせ、昼食後休息して頂けるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴、力を活かし畑仕事や草取り、家事とその方が活躍できる場面を作り、沈みがちな方にはドライブ、散歩、買物へと出掛け職員と会話しながら気晴らしできるように支援している。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者が食べたいおやつをスーパーに買いに行き、利用者からお金を払って頂いたり、面会に来た孫にこづかいをあげたいと希望される時は、お預かりしているお金をご本人の財布に入れ本人が直接孫に渡せるよう支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調、気候等配慮しながら散歩、ドライブ、日光浴と戸外でのレクリエーション等を積極的に支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の面会時一緒に近くの道の駅、スーパー等外出されたりドライブで自宅付近に出掛けたりと支援している。	○	個別に対し、ご家族にも外出(行きたいところ、行ってみたいところ)への働きかけを行っている。ご本人の希望、思いを実現していきたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状、暑中見舞い等名前や一言だけでも書いて頂けるよう支援している。電話はご本人が直接使用されたり、職員がご家族と話しが出来る状態で受話器を耳に当てていただいたり個別で対応している。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問して頂いた際は、居室でお茶を飲みながらゆっくりと会話を楽しんだ頂けるよう配慮している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	ご家族の意思、判断にて申し込みがある場合は対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	利用者の誕生会、おたのしみ会、お花見等積極的に参加を呼びかけている。	○	家族会を通じて草取り作業、畑、花壇整備等利用者、職員と一緒に関わられる計画を増やして行きたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	落ち着かれない時、帰宅願望が強く離脱された場合など職員と一緒に行動し見守り体制を十分に行い、利用者の様子、所在の把握に努めている。歩行不安定な方に対しても長時間同じ姿勢、同じ位置で過ごす事を避け抑制、拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関、居室の施錠なし。自由な出入りを提供。		
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者と過ごす時間を大切に、一人ひとりの状況の把握に努め、夜間は定期的な巡視を行い安眠、安全を配慮。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に応じて危険を防ぐ取り組みを行っている。		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハットを記入し原因を見極め利用者一人ひとりの状態に応じたおこりうる事故に対し事前回避に努め今後の対策について検討している。		
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	会議・カンファレンス時に対応手順等の説明は看護師中心に行っているものの、実際に訓練としては行っていない。	○	看護師中心に定期的な訓練を行って行きたい。
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や「ヒヤリ・ハット報告書」等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故が発生した場合「ヒヤリ・ハット」への記録と共に再発防止を職員間で話合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署への協力を得て定期的な避難訓練、消火訓練を実施している。運営推進会議で夜間想定での避難訓練実施を地域の方々に呼びかけ協力・参加頂き、自治会で災害非難時にはGHへの協力を会長より、同じ班の方々に働きかけて頂いている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	さまざまなリスクに対しその都度家族に説明し、その方らしい抑圧感のない暮らしをする為の対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行い体調管理に努めている。また、異変に気付いた際は併設のクリニックに報告し早期の対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	全職員が利用者一人ひとりの目的、副作用等の理解に努め、服薬セット・チェックと段階においての確認を強化し誤薬防止、飲み忘れが無いよう支援している。また、薬の変更があった場合様子観察を努めている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表を基に排便サイクルの把握に努め、予防としては毎日の体操、食物繊維、乳製品を摂ったり、食事面でも配慮している。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	利用者一人ひとりの状態に応じて毎食後の口腔ケアの支援を行っている。また、職員管理において歯ブラシの交換をこまめに行い、歯科受診、往診の際はそれぞれに応じたケアを習っている。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事、水分摂取量の記録を行い、それぞれの状態に応じた食事形態にて支援している。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、うがい、手洗いの施行、手すり等の消毒を行い日常的に予防に努めている。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	栄養士が衛生管理に努め、その日の食材は当日新鮮なものを購入するようにしている。また、ホームの畑でとれた野菜を使用したりと旬の食材を中心としている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前の花壇には、四季折々の花が植えてあり近隣の方々の目を楽して頂いている。また、玄関には腰がかけられるようベンチを置き、ゆっくりできるスペースをつくっている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節感が伝わるよう玄関、ホールには常に季節の花を活けている。ホール、廊下にはソファ、椅子を各箇所に配置し自由に好きな所でゆっくり過ごせるように配慮している。また、ホールでは常に家事の音、匂いが伝わり見て、聞いて、嗅いでと五感に働きかけを行っています。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間では廊下等にソファ、椅子の設置を多くとり自由に好きな場所でくつろげるよう工夫している。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅よりご本人の使い慣れた物、見慣れた物をご本人の状態、生活スタイルに合わせたもの、希望されるものを家族と相談しながら用意し安心感のある、居心地の良い空間づくりを提供している。	○ 要望があり、位牌を持ち込まれ家族の面会も増え、居室でゆっくり過ごされる時間が増えた。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は積極的に行っている。温度調節は小まめに利用者の状況を見て行い、夜間もその日の気温、利用者の体調等配慮しながら過ごしやすい温度調節を行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	利用者一人ひとりの状態を把握したうえで安全第一にその方らしい生活が送れるよう配慮している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの状況に応じて混乱を招くもの、発言に注意しながら環境作りに工夫している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	広い畑、花壇、庭を確保、日光浴をしたり花や野菜の収穫を楽しんだりしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない